輝いている人を紹介します

まちのキラリ

新田会 副会長
佐藤英吉（えいきち）さん（梁川地域）

新田会の副会長として新田の土手桜の立ち上げから携わる佐藤英吉さん。主に庶務事務担当として縁の下の力持ちの役割を担っている佐藤さんに、新田の土手桜など地域づくりの活動を伺った。

新田の土手桜

新田の土手桜は、県道梁川霊山線から見える梁川町新田字宮崎地内の田んぼの土手に、大きな山桜をシンボルに陽光（ようこう）桜60本、鬱金（うこん）45本、関山（かんざん）45本を植樹しています。

きっかけは地域の話から

この桜を植えるきっかけは、町通（まちどおり）町内会の会長を務めていた佐藤清一（きよかず）さんが「あの土手に桜を植えたい」と話をしていたことから始まったと思います。平成28年に故原田建夫さんから寄贈された15本の陽光桜をその土手に植樹し、日本さくらの会を紹介してくれました。新田会として本格的に植樹に取り組むことになり、苗木は日本さくらの会の事業を、植樹に向けた整備は伊達市地域づくり支援事業を活用して平成29年から令和元年の3年間で行いました。植樹した土手は、うっそうとした雑木林でしたので、地権者の了承を得てまずは伐採から。地元の事業者に頼んで整備を進め、町内会長や新田会の役員の協力により植樹を行いました。令和2年度より維持管理を新田地区と陽光台地区の皆さんに募集をかけて、年3回の除草作業に協力をいただいています。

地域の活動の中心に

私は30歳で地元に戻ってきましたが、土日も休みなく家と会社の往復の生活をしていたので、全く地域に関心がなく、無頓着な生活を送ってきました。だから、親から「地元に全く貢献していない」と言われたほどでした（笑）。そんな私ですが、退職後に新田会の活動に参加するように声をかけられ、庶務事務を担当するようになりました。縁の下の力持ちの役割ですが、地域で出た話を実現させたいと思い日々務めています。そのおかげで、せきもとさとづくり推進協議会や交通安全協会など、今になってさまざまな地域の活動に携わっています（笑）。

今後は、新田会で管理するこの桜や、せきもとさとづくり推進協議会で進める愛宕山公園と連携した笠石地内の遊歩道整備など、地域の憩いの場を地域の皆さんと作っていきたいです。

Profile ●佐藤英吉

東京で国家公務員として4年間勤務し、その後情報システム関係の仕事に就いた。30歳で地元に戻り30年間システムエンジニアの仕事に従事。60歳で定年退職したのを機に、声をかけられ地域の活動に参加。平成24年から新田会の副会長を務め「新田の土手桜」の立ち上げから庶務担当として携わる。その他、堰本地区の様々な地域活動に携わっている。